

氏名	平川 善大
所属	人間健康科学研究科 人間健康科学専攻
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	健博 第 246 号
学位授与の日付	令和 5 年 3 月 25 日
課程・論文の別	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題名	訪問看護師教育プログラムとしてのシミュレーション教育の試験的導入とその有用性
論文審査委員	主査 教授 織井 優貴子 委員 教授 斉藤 恵美子 委員 教授 河原 加代子

## 【論文の内容の要旨】

### 研究目的

本研究の目的は、訪問看護ステーションにおける看護師教育に活用できる教育方法として、シミュレーション教育プログラムを構築し、その有用性を検証することである。具体的には、本教育に使用するすべての機材をステーションに搬送して模擬ルームを設営し、シミュレーション教育を実施すること、かつ、定期的にステーションを巡回し、シミュレーション教育を実施することの有用性を検証することである。

### 研究方法

#### 1. 訪問看護に必要なシミュレーション教育ニーズの調査

シミュレーション教育に対するニーズとその実施に向けた人的、時間的、場所的な状況を調査するため、B 地域の訪問看護ステーション看護管理責任者 7 名を対象に、個別にオンラインインタビュー調査を実施し（約 90 分）、それらの音声データを文書化し、計量テキスト分析を行った。

#### 2. 「訪問看護ステーション巡回型シミュレーション教育プログラム」の作成

教育ニーズ調査の結果を基に本教育プログラムのシナリオを作成した。その後、3 ヶ月毎に訪問看護ステーションを巡回し、作成したシナリオを使用し、90 分で構成されたシミュレーション教育プログラムを構築した。

#### 3. 「訪問看護ステーション巡回型シミュレーション教育プログラム」の有用性の検討

B 地域の訪問看護ステーション 5 カ所 33 名を対象に、巡回型シミュレーション教育プログラムを実施し、プログラム運営や教育の実体験から実現可能性を検討した。また、「シミュレーションデザイン尺度」、「教育実践アンケート」、「学習における学習者の満足度と

自信」に関する尺度を用いて、その有用性を検討した。さらに、vSim®（バーチャルシミュレーション）を用いて各対象者のスコアを経時的に比較した。

## 研究結果

### 1. 訪問看護に必要なシミュレーション教育ニーズの調査

インタビューの音声データを文書化し、計量テキスト分析を行った結果、総抽出語数は28,160語であった。出現回数10回以上の語で階層的クラスター分析を行った結果、【フィジカルアセスメント】、【他（多）職種との連携・連絡】、【優先順位・判断】など、9クラスターに分類された。共起ネットワーク図から、【コミュニケーション】、【新人がもつ経験】、【制度の知識】など、11の語のかたまりに分類された。また、シミュレーション教育プログラムは、それぞれの施設で、90分程度の実施が可能という回答を得た。

### 2. 「訪問看護ステーション巡回型シミュレーション教育プログラム」の作成

教育プログラムは、それぞれの施設を3ヵ月に1度、合計4回巡回し、施設毎に実施するプログラムが完成した。教育ニーズ調査の結果から、各回の症例は心不全を中心としたフィジカルアセスメントに関連するもの、他職種への報告を含むものとし、ファシリテーションガイドおよびデブリーフィングガイドを含んだ教育プログラムを作成した。加えて、資機材の運搬から設営、シミュレーション実施、撤収までを指導者1名ないし、2名で実施する巡回型の運営体制が組まれた。

### 3. 「訪問看護ステーション巡回型シミュレーション教育プログラム」の有用性

教育プログラムへの参加施設は、3施設はプログラムを完了することができた（2施設は、新型コロナウイルス感染症の影響で途中離脱）。各尺度で得られたシミュレーション教育プログラムに対する評価は、参加回数ごと、看護師経験年数20年未満または以上の群に分けて比較した。いずれの尺度においても1回参加した群より2回参加した群の得点が高く、有意な差が認められた。2回、3回、4回参加した群の間では、その得点に有意な差はほとんど認められなかった。また、看護師経験年数が20年以上の訪問看護師は、20年未満の看護師に比べ、「協同学習」や「メンバーと情報共有」することに関する項目の得点が高い傾向にあり、有意な差が認められた。vSim®のスコアは1回目と2回目実施、1回目と3回目実施の間で得点が上昇し、有意な差が認められたが、それ以外では得点の変化に有意な差は認められなかった。

## 考察・結論

一連の研究結果より、「訪問看護ステーション巡回型シミュレーション教育プログラム」として、中小規模の訪問看護ステーションを巡回しながら、シミュレータを使用したシミュレーション教育の実施が可能であることが示された。また、教育プログラムは、2回以上参加できるように設計することで、シミュレーション教育の設計に対する評価が高まり、特に「教育の中でサポートを受けている」という感覚が高まることが明らかとなった。訪問看護師を対象としたシミュレーション教育では、協同学習や他者とディスカッションを行うことにより、仲間と一緒に学習する機会として有用であることが示唆された。vSim®

を継続して実施することによる得点の変化に有意な差はみられなかったが、実施の間隔が3 ヶ月では得点の低下はみられず、6 ヶ月になると低下する傾向がみられたため、今後の教育プログラムを継続して改善していく上での貴重な基礎的データとなった。これらから、本教育プログラムに有用性は認めるが、今後さらに発展させるためには、改善すべき課題についても示唆が得られた。